

# 魔法のワンドプロジェクト 地域セミナー仙台会場 実践中間報告



## 不応行動があるKさんの コミュニケーションを支援する

あるいは、一度YouTube専用機になってしまったiPadを  
再び学習の道具として認識してもらうことは可能か？

長野県稲荷山養護学校  
青木高光

# 対象生：Kさん

## 中学部2年生 知的障がいを伴う自閉症

- 大声を上げたり、他害行為をしたりなどの不適応行動がある
- 発語が無く、明確な意思表示ができない

# 困難



# ねらい

大声、他害行為  
などの不適応行動

発語が無く、明確な意思表示  
ができない

スケジュールや手順を理解した上で、自分から好きな活動に一定時間取り組むことができるようになる。

補助手段を用いて、1語文での自発的な要求表出ができるようになる。

# 活動内容：事前の状況

①

周囲の状況や声がけを手がかりにして活動しているが、流れを理解して楽しく取り組める活動が殆どない。

→スケジュール  
理解

②

明確な意思表示手段がない。

→表出手段の保証

③

大きな声や音をたてる不適応行動、突然隣の人を叩いたりする他害行為がある。

→背景の分析と  
誤学習の修正  
代替行為の学習

# 活動内容：事前の状況

①

周囲の状況や声がけを手がかりにして活動しているが、流れを理解して楽しく取り組める活動が殆どない。

→ スケジュール  
理解

②

明確な意思表示手段がない。

→ 表出手段の保証

③

大きな声や音をたてる不適応行動、突然隣の人を叩いたりする他害行為がある。

仮説：不安感や不満を表せないことが、この原因になっているのだろう

→ 背景の分析と  
誤学習の修正  
代替行為の学習

# 活動内容：事前の状況

④

昨年度明確な導入計画や目標がないままにタブレットを与えられたため、

YouTubeを観たり、無目的にタップしたりするだけといった使い方になっている。

→iPadの再導入の手だてが必要

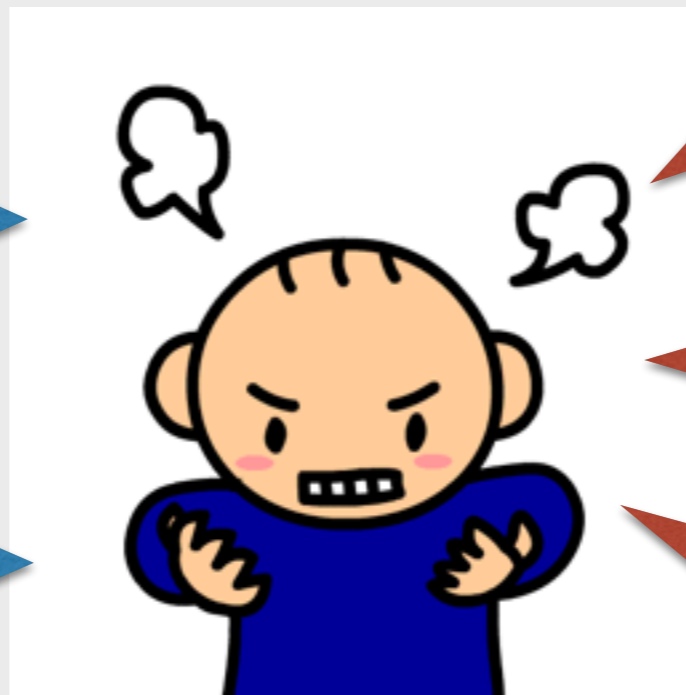
# 何をすべきか

視覚的スケジュール  
ジュール

わかるように伝  
くれない！  
になにやるの  
か不安！なんか  
勝手な指示され  
るけど意味分か  
んない

伝えたいことあ  
るのに、方法が  
無い！

AAC手段



意味分かんないから声出  
すと、注意される！

注意されて嫌な気分だか  
ら手を上げると、みんな  
何も言わなくなる

よく分からな  
味分かんないこ  
れるよりいいか！

トークン  
エコノミー

この悪循環

# 活動内容①

スケジュール理解  
のための取り組み

○昨年度末から学級で取り組んでもらっている3日分の**スケジュール提示を徹底**する

→スケジュールを描いて伝え、視覚的の手がかりを得られるようにする。その安心感をベースに生活できるようにする。

○順次シンボル表示と音声FBのある手順表アプリに切り替える

→それを手がかりに活動できるようにしていく（自分で変更、修正できるスケジュールとして活用）



# 対象生の事後の変化（スケジュール）

4月に担任が主任を含め大幅に入れ替わった。引き継ぎがうまくいくか懸念されたが、幸いこれまでの取り組みに理解をもらえ、視覚的に伝えることを学級でも心がけてもらえた。

スケジュールは敢えて手書きの物を使い、学級での実践のハードルを下げることを心かけた。

担任と朝のスケジュール確認





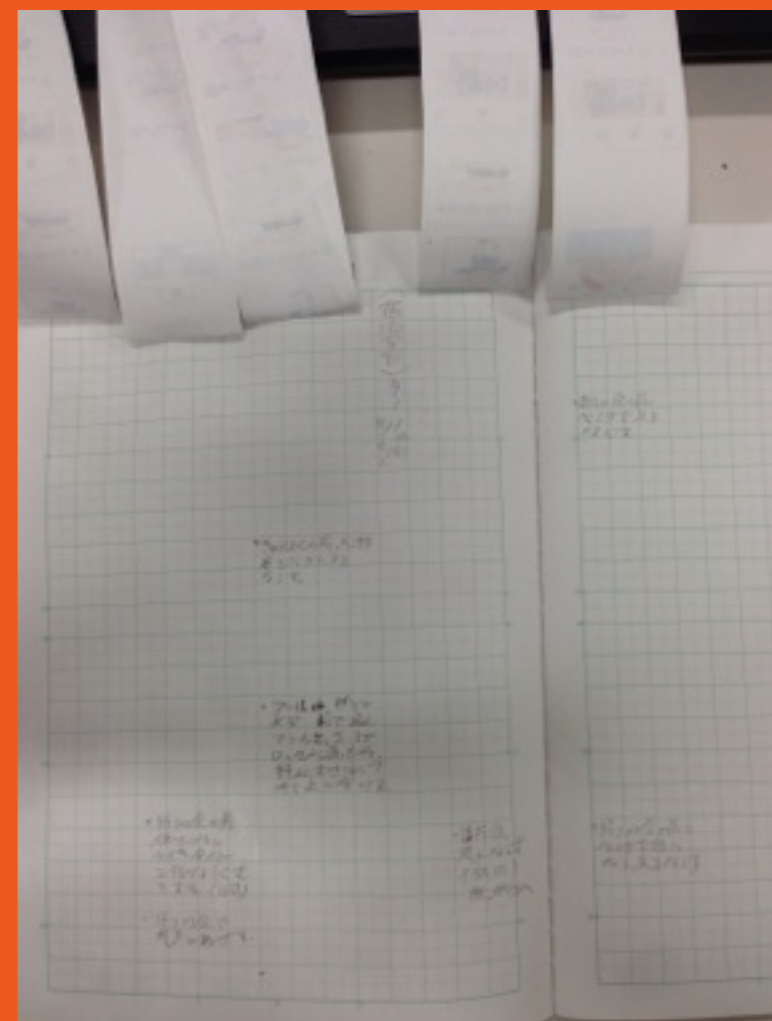
# 対象生の事後の変化（スケジュール）

さらに

スケジュールを再利用して、活動の様子を記録。担任の先生が独自の方法を考えてくれた。



終わったスケジュールをノートに貼り、その下に不適応行動などの記録をつける



# 個別の学習 視覚的スケジュール伝達



課題をクリア 自分で○つけ

# 対象生の事後の変化（スケジュール）

個別の学習を楽しみにしてくれている様子が見られる。

スケジュールの〇つけが自分で完璧に行えることが確認できた段階で、DropTalk HDのスケジュール機能に移行した。シンボルを見て、音声FBを聞いてもらいながら予定を確認した。1回目から違和感無く活動でき、2回目からはすぐに自分で完了チェックを入れられるようになった。

スケジュールを  
iPadへ移行



# 運動中の提示



終了すると自分から行ってチェック



## 活動内容②

表出手段形成のための取り組み

- 自分の欲しいものや、やりたい活動を、写真とイラストの指さしで伝える場面を仕組んでいく（主に個別指導の中で。昨年度から取り組んでいる感覚統合的な運動・遊びの場面で順次導入していく）。
- 手順表アプリの操作を自分で行うことで、次の活動を自分で決定できる状況を作る。

# 対象生の事後の変化（表出）

自分の好みを伝える学習の一つとして、昨年度末から少しずつ取り入れていた大好きなパズルアプリを使って、以下のような活動を行う。

画像検索で「ラーメン」「ハンバーグ」など好きな語彙を入れる

→画像の中から好みの物を選ぶ

→画像を保存し、ジグソーパズルメーカーで遊ぶ。

ジグソーパズル  
メーカー



多数の画像の中から好みを選ぶ

# 選んだ画像でパズル



# 対象生の事後の変化（表出）

スケジュール選択場面で「自分で選ぶ」活動ができています。

食べ物画像の選択をする姿は、今後のiPadを使っでの「選択」にスムーズにつながる可能性が感じられる。

スケジュールの入れ替え



スケジュールの中で楽しめるようになって  
きたKさん

# 活動内容③

## 不適合行動に関する誤学習の修正

- 評価される活動と、不適合行動との違いを、身体プロンプトや視覚支援を用いて理解できるようにしていく。大声を出しそうになったら頬を指差す、他害行為をしそうになったらハイタッチをする、など他の動きに切り替えていく。切り替えられたらトークンで即時強化し、推測される「訴えたいこと」を、シンボルの中から選べるような提示する。
- 学級、家庭と連携してトークンエコノミーを導入し、褒められる場面を意図的に増やして行く。トークンは「できたねシール」、トークンが一定量たまった後の二次的強化は休日に自宅で保護者から与えられる物にする予定。
- 写真系のアプリを活用し、トークンを視覚的にタブレット内で表示する。それによって学校と家庭で同じ行動が認められることを理解できるようにしていく。

# 活動内容④

## iPadの再導入

- 家庭から持ち込んでいるiPadと見た目で区別できるように、学習用iPadには形や色に特徴があるケースをつける。
- 最初はアクセスガイドの設定で他のアプリが使えないようにする。
- 使用場面をスケジュールの中で明確に伝える。



# 対象生の事後の変化（iPad再導入）

家庭から持ち込んだiPadでは、すぐに動画を見始める。しかし、学習用iPadは導入時に何度かホームボタンを押して、他のアプリに切り替えたり、動画アプリを探したりする姿が見られただけで、すぐにそういった行為は無くなった。活用場面や使用方法を明確に区別することで、少なくともこの事例では「iPad=遊び道具」という刷り込みを修正できることが確認できた。

iPadの使い分けが定着してきた



# 今後の取り組みの見通し

## スケジュール理解

現在も、学級の授業や、大きな集団の中での学習には参加できない時間がある。今後担任と相談しながら、明確なスケジュール提示と、本人による選択で少しずつ自発的な参加を増やして行く。7月中を目処に、これまでの集団活動参加時の不応行動の数（担任がカウント中）と、スケジュールを活用した参加との差をまとめる。

## 表出手段形成のための取り組みと不応行動に関する誤学習の修正

家庭での使用する語彙のリストを、保護者の協力のもと作成中。それを参考にしつつ、家庭と連携したトークンエコノミーの導入の準備を進める。

不応行動を上手く他の行為に変えられた時の評価の方法と記録形式、二次的強化の内容と方法を保護者、担任と相談し決定していく。

## iPadの再導入

予想以上にiPadの使い分けが上手くできているので、次の段階としては逆に、一つのiPadの中に趣味と学習のアプリを共存させ、使い分けられるようにしていく。そのための手段を保護者と確認し、再導入を行ってもらう。